

**[成果情報名]西洋ナシ品種・系統の単為結果性及び単為結果果実の果実肥大**

[要約]西洋ナシ 49 品種・系統の単為結果性を明らかにした。単為結果率と単為結果果実の果実肥大には品種間差がある。

[キーワード]西洋ナシ、単為結果性、果実肥大、品種間差

[担当]山形県農業総合研究センター園芸試験場・バイオ育種部

[代表連絡先]電話 0237-84-4125

[区分]東北農業・果樹

[分類]研究成果情報

**[背景・ねらい]**

受精及び種子形成がなくても結実する単為結果性は結実安定に関わる重要な要因の一つであり、開花期の気象条件によらず結実が良いことから、単為結果性の強い西洋なし品種の開発が望まれる。

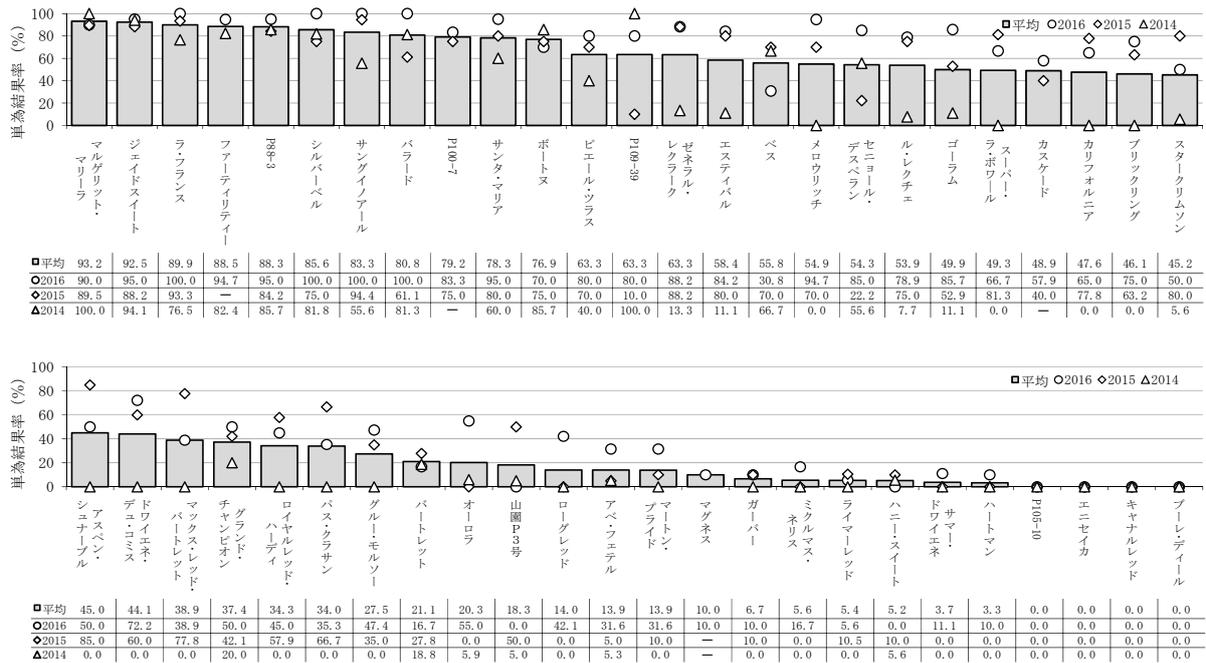
**[成果の内容・特徴]**

- 1 西洋ナシ品種・系統の単為結果率は、図 1 のとおりである。「ラ・フランス」や「マルゲリット・マリーラ」のように単為結果率が 90%程度と高い品種・系統から「エニセイカ」や「キャナルレッド」のように 0%の品種・系統まであり、単為結果率には品種間差がある。また、「ル・レクチェ」や「メロウリッチ」のように単為結果率の年次間差が大きい品種・系統がある。
- 2 単為結果果実の放任受粉果実に対する果実重比は、図 2 のとおりである。「ラ・フランス」や「マルゲリット・マリーラ」のように放任受粉果実と同程度に肥大する品種・系統から「ポートヌ」のように放任受粉果実の半分程度までしか肥大しない品種・系統があり、単為結果果実の肥大能力には品種間差がある。

**[成果の活用面・留意点]**

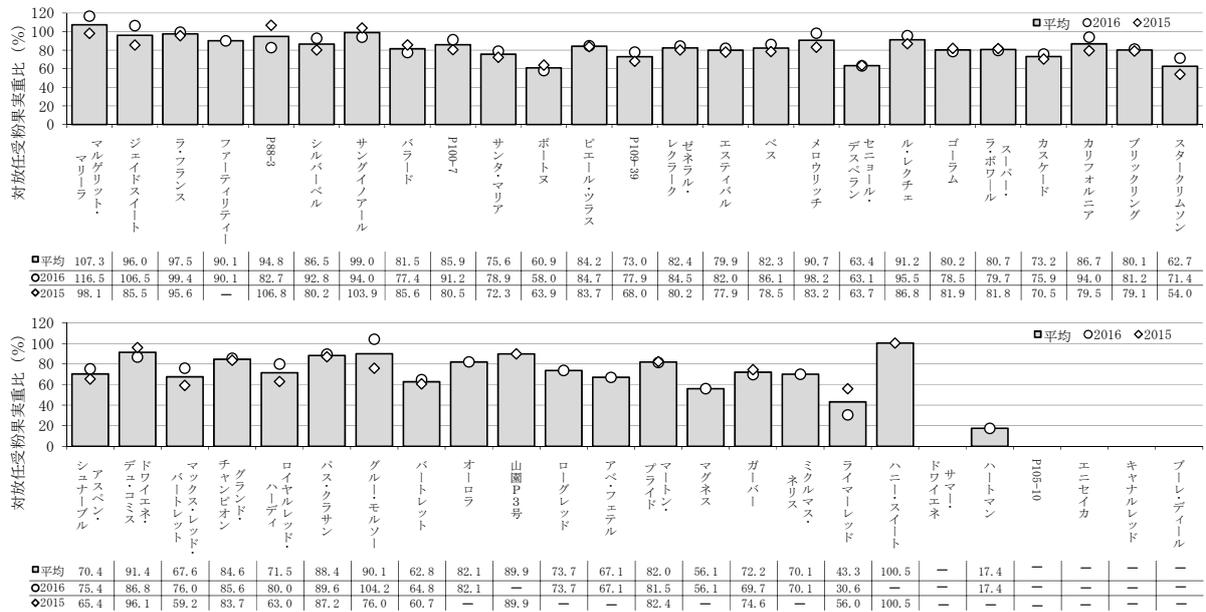
- 1 本成果は、山形県農業総合研究センター園芸試験場で保有する樹を用いた結果である。
- 2 単為結果の調査方法は各品種 20 花そうについて開花前に 1 花そう 1 輪に摘花し（除雄は未実施）、他家受粉しないように袋がけをして行った。袋がけし、結実した無種子果実を単為結果果実として評価した。また、放任受粉果実の調査は、単為結果同様に開花前に 1 花そう 1 輪に摘花し、果実は有種子であることを確認している。
- 3 「ゴーラム」とそのサビ果枝変わりである「グランド・チャンピオン」は、部分的自家和合性を有し、年によって自家結実することがある（データ略）。

[具体的データ]



2014～2016年の調査結果

図1 品種・系統間の単為結果率の差異



2015, 2016年の調査結果。図1の単為結果率の降順に示した。

図2 単為結果果実の対放任受粉果実重比

(山形県農業総合研究センター)

[その他]

研究担当者：多田史人、高橋由信、佐々木泰子、安達栄介、石黒亮、佐藤康一、佐藤裕則  
 発表論文等：平成28年度園芸学会秋季大会